

# 高田城下を彩る花のイベント 「城下町・高田花ロード」

上越市産業振興局長

佐野 隆

城下町・高田の歴史は、慶長十九年（一六一四）に徳川家康の六男・松平忠輝公が高田城を開城したことに始まります。以来四百年間にわたり、高田は上越地域の中心として栄えてきました。

高田の市街地には、今もなおお釜盤の目のような町割や雁木通りなど、城下町のたたずまいが残されておりま。しかしながら、車社会の到来や郊外型商業施設の集積などにより、全国的な傾向である中心市街地の空洞化という社会環境の変化を招き、中心商店街にも空き店舗が増え、かつての街の賑わいが失われてしまいました。

こうした中、街に賑わいを取り戻したいという「おかみさん」達を中心にした商店街の皆さんが立ち上がりました。越後妻有大地の芸術祭」をコーディネートした北川フラム氏（上越市大町出身）をア

ドバイザーに迎え勉強会や討論会を重ね、

これからの取組みを検討。その結果、城下町・高田の地域資源を再発見し、一体感を醸成しながら地域の魅力を発信できるようなイベントを実施することを決定しました。

そして平成十一年十月、本町や大町といった中心市街地の通りを市民から募った花をテーマにした作品で彩り、「第一回城下町・高田花ロード」を開催。歩きながら町並みや人情など城下町の魅力を発見してもらったのです。

このような経緯で始まった花ロードも、本年で七回目を迎えました。上越の歳時記を彩る、春の観桜会、夏の上越まつり、冬のレルヒ祭と並び、市民に愛される秋のイベントとしてすっかり定着しています。

この七年の間には「全日本花いっぱい上越大会」や「寺町サミット」など大きなイベントとも連携し、市民のみならず観光客との交流を図ってきました。このような取り組みが評価され、本年十月、日本観光協会が選定する花の観光地づくり大賞の奨励賞を受賞いたしました。

今年一月一日に周辺十三町村と合併して新生上越市が誕生したことから、今年の花ロードは、「合併記念イベント」として十月の八日から十日にかけて実施されました。新市域も含め内外から百四十点を越える作品が応募され展示しました。また、明治期の建築である映画館で行われた「景観寄席」や町家を利用した喫茶店など地域資源を活用した取組みに加え、辻に様々な催しを集中させて賑わいを創出する「お馬出しアート遊市」などの相乗効果も発揮し、あいにくの天候ではあったものの三日間で約四万人の人が訪れました。

私も、それぞれに趣向を凝らした作品を鑑賞し、笑顔いっぱいの人々が行きか賑わいにあふれた商店街をみて、花ロードの取り組みの成果を肌で感じるこ

とができた三日間でした。

今年の花ロードは終わりましたが、同時にまた、来年に向けたスタートでもあります。ぜひ、来年は当市へお越しいた

だき、花ロードをお楽しみください。心からお待ちしています。

